

## マイワシ太平洋系群の漁況予報

今後の見通し(2007(平成19)年8月～12月)

対象海域:北薩～道東

対象漁業:まき網、定置網、船曳網

対象魚群:0歳魚(2007(平成19)年級群)、1歳魚(2006(平成18)年級群)、2歳魚(2005(平成17)年級群)、3歳魚(2004(平成16)年級群)。年初に加齢。魚体は被鱗体長。

### 1.北薩～熊野灘(まき網、定置網)

(1)来遊量:依然として低水準であるが、北薩～紀伊水道外域西部では前年を上回る。

紀伊水道外域東部～熊野灘では引き続き低水準で推移する。

(2)漁期・漁場:期を通じて散発的ではあるが、0歳魚主体で漁況がまとまる可能性がある。

(3)魚体:0歳魚(12～17cm)主体で、1歳魚(18～19cm)も漁獲対象になる。

### 2.伊勢・三河湾～相模湾(まき網、定置網、船曳網)

(1)来遊量:依然として低水準。伊勢・三河湾並びに相模湾では前年を上回る。遠州灘～駿河湾では前年並み。

(2)漁期・漁場:期を通じて散発的。

(3)魚体:0歳魚(13～17cm、伊勢・三河湾では15cm以下)主体に1歳魚(17～19cm)が混じる。遠州灘～駿河湾では1歳魚(17～19cm)主体。

### 3.房総～道東(まき網、定置網)

(1)来遊量:漁獲の主体となる1歳魚は、前年同期を下回る。2歳魚も引き続き漁獲対象になる。12月以降0歳魚が未成魚越冬群として加わる。

(2)漁期・漁場:主漁場は8～10月には常磐海域～三陸南部、11月には常磐海域以南、12月には犬吠埼沖となる。三陸北部以北、道東海域への来遊は依然として低水準。

(3)魚体:1歳魚(17～19cm)主体で、期の前半には2歳魚(20～21cm)も混じる。12月以降0歳魚(12～13cm)がカタクチイワシに混獲される。

漁況の経過(2007(平成19)年4月～6月)および今後の見通しについての説明

#### 1. 資源状態:

マイワシ太平洋系群の資源量は1994(平成6)年に100万トンを下回り、その後1999(平成11)年までは70万～90万トン台で推移したが、その後再び減少傾向となった。2002(平成14)年以降は10万トン台の低水準にあると推定された。近年の動向としては横ばいである。

2004(平成16)年級群は、2005(平成17)年の間に実施された沖合分布調査で1歳魚としての採集がほとんど見られなかったことから、分布量は極めて少ないと考えられた。2006(平成18)年並びに2007(平成19)年明け以降の漁獲尾数も少なかったことから、3歳魚としての資源量水準は漁獲対象にならないほど低いと考えられる。

2005(平成17)年級群は、2006(平成18)年6～8月における房総～鹿島灘海域での活発な漁獲の主体となり、1歳魚としての漁獲量は前年を大きく上回った。一方、8～9月の北辰丸による表層流網調査(釧路水試)、9～10月の北鳳丸による表中層トロール調査(東北水研八戸)では高い分布密度が認められなかったことから、沖合域の分布密度は高くないと推定された。房総～鹿島灘海域においては、2007(平成19)年1～3月にも活発な漁獲の対象となり、その後も引き続き漁獲物に出現していることから、2歳魚としての資源量水準は前年を上回ると考えられる。

2006（平成18）年級群は、2006（平成18）年6～7月に行われた北鳳丸・青海丸による表中層トロール調査（東北水研八戸）並びに北辰丸による表層流網調査（釧路水試）では、0歳魚としての沖合域での分布は認められなかった。その後、9月並びに10～11月に行われた北辰丸による表層流網調査（釧路水試）では分布が見られ、近年2年の皆無より上回ったが、9～10月の北鳳丸による表中層トロール調査（東北水研八戸）での分布密度は前年を大きく下回った。2007（平成19）年2月の俊鷹丸並びに開洋丸による現存量調査（中央水研）での分布密度も前年を大きく下回った。これらのことから、1歳魚としての資源量水準は前年を下回ると考えられる。

2007（平成19）年産卵期（前年10月から当年6月までの暫定値）における産卵量は約150兆粒であり、前年の38兆粒を大きく上回り、2005（平成17）年産卵期（101兆粒）も上回った。シラス漁況も前年を上回り好調に推移した海域が多かった。5月の北鳳丸による幼稚魚調査（中央水研）での加入量指数は29であり、2005（平成17）年（28）と同程度であった。2007（平成19）年6～7月に行われた北鳳丸・青海丸による表中層トロール調査（東北水研八戸）でも、2005（平成17）年と同程度の分布量が認められた。これらのことから現時点では、2007（平成19）年級群の加入量水準は近年において比較的加入量が多かった2005（平成17）年級群と同程度と考えられるが、今後、秋季の表中層トロール調査（東北水研八戸・中央水研）、未成魚越冬群調査（中央水研）等の結果により判断していくことになる。

## 2. 来遊量、漁期・漁場、魚体：

北薩～熊野灘：前期（4～6月）の主要水揚量は、前年同期の6倍以上となり、近年5年では最高であった。特に鹿児島県と宮崎県並びに愛媛県の漁獲が急増した。一方、紀伊水道外域～熊野灘では依然として低調であった。北薩～紀伊水道外域西部では、今期（8～12月）の来遊量は前年を上回ると予測される。一方、紀伊水道外域東部～熊野灘では、来遊量は低水準で推移すると予測される。体長組成の推移等から、前期の漁獲は全体として0・1歳魚主体であり、その中で熊野灘のまき網では2歳魚（18～20cm）が主体、定置網では1歳魚（15～18cm）が主体であったが、その他の海域では0歳魚（15cm未満）が主体であった。今期（8～12月）は0歳魚（12～17cm）主体で、1歳魚（18～19cm）も漁獲対象になると予測される。

伊勢・三河湾～相模湾：前期（4～6月）の主要水揚量は、依然として低水準ではあるものの、全体としては前年同期を上回った。今期（8～12月）も、期を通じて来遊量は低水準であるものの、前年を上回る（伊勢・三河湾並びに相模湾）もしくは前年並み（遠州灘～駿河湾）と考えられる。体長組成の推移等から、前期の漁獲は1歳魚（15～16cm）が主体で、後半には0歳魚（13cm未満）が混じるようになった。今期（8～12月）は、0歳魚（13～17cm、伊勢・三河湾では15cm以下）主体に1歳魚（17～19cm）が混じると考えられる。遠州灘～駿河湾では1歳魚主体（17～19cm）と考えられる。

房総～道東：前期（4～6月）の主要水揚量は、前年同期を下回った。前年は6月に9千トン以上の漁獲が見られたが、今年は4千トン台にとどまっていたことによる。漁況と、沖合域の分布調査結果も考慮すると、今期（8～12月）の来遊量水準は、漁獲の主体となる1歳魚の資源量水準が前年を下回ると考えられることから、前年同期を下回ると予測される。一方、2歳魚は引き続き漁獲対象になると考えられる。主漁場は8～10月には常磐海域～三陸南部、11月には常磐海域以南、12月には犬吠埼沖となり、三陸北部以北、道東海域への来遊は依然として低水準と予測される。体長組成の推移等から、前期（4～6月）の漁獲の主体は1歳魚（15～17cm）で、2歳魚（19～20cm）も引き続き漁獲された。今期（8～12月）も1歳魚（17～19cm）主体と予測されるが、期の前半には2歳魚（20～21cm）も混じると考えられる。12月以降0歳魚（12～13cm）がカタクチイワシに混獲されると考えられる。